練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第 15 回）「キャリア教育の推進」部会　要点録

開催日時		平成 22 年９月６日(月)　午後３時 00 分～午後５時 30 分
会　　場		練馬区役所本庁舎 12 階　教育委員会室
出席者	委　員	廣嶋憲一郎、石井友行、小野雅保、世古徳浩、安井実、望月徳生、根本裕美、飯塚剛、野田恵威子、髙橋吉久（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	鈴木裕行　指導主事

１　挨拶

部長

スケジュールから考えるとゴール地点を少しずつ見据えながら検討を進めることになるかと思う。今日はできれば事務局からほかの部会の様子などについてもお話をいただき、検討を行っていきたい。

２　討議

事務局

これは本日の協議資料で、前回までに出された事例を整理したものである。実はこの事例を踏まえて、小中一貫教育資料作成委員会中間報告という A4 判２枚のものを用意した。文書は９月 10 日付になっており、当日の推進委員会で各部会の進捗状況を報告するためにまとめたもので、先ほど小野校長先生がおっしゃったほかの部会の様子については、これが一つの手がかりになるかと思う。

特に１枚目の裏面の２ページ目は、各部会の事例を一覧にまとめたものである。ほかの部会がどんな事例を用意しているか、参考にできるかと思う。それから、キャリア教育の推進部会には、これまでの協議を踏まえて学年やⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期の位置づけなどを入れてみた。

教育課程の中に位置づけづらいもの、中学校の部活動や学年をまたがっているようなもの､それから特別支援学級をどのように表記するか辺りは苦労しながらまとめた。挙げられている事例では「１／２成人式」などは重なるが、前回の議論にもあったが、それぞれ柱立てに応じた提案ということで気にせずに挙げている。それから､「ともだちいっぱい！　がっこうだいすき」の事例から入っているちょっと厚めに綴じたものがある。今まで提案していただいた学習指導案の電子データを一つのファイルにまとめてみた｡書式をそろえて並べてみるとまた気がつくこともあるかと思って用意した。残念ながら電子データが手に入っていない部分については表題だけになっている。

あと事務局のページについては鋭意協議進行中であり、本日原稿としてお渡しできなかった。ご容赦いただければと思う。

委員

「クリーン運動」や「職場体験」も重なっている。

部長

体力の向上の２年、３年、７年の空欄には何か入る予定があるのか。

事務局

今のところは特にない。

部長

３枚目に「本事例の小中一貫教育校で期待される効果」が示されているということは、ほかの３部会についてもこういう項目を立てて書いてほしいということか。

事務局

はい。では、学習指導案が届いているので検討を行う。

委員

この事例は８ページ構成で、１ページ目は他の事例と項目立ての順番が違っているので、あとで直す。１ページ目は昨年度出した事例から抜粋した。下はパソコンルームの写真である。また、どうしても２ページ目に入れるものがなく、うちで使っている自立のためのチェックシートを入れた。この扱いをどうするかご意見をいただければありがたい。３ページ目、４ページ目はパソコンの学習確認テストである。Ｃ級、Ｂ級、Ａ級とあるが、とりあえずＣ級のものを提示した。５ページ目、６ページ目はエクセルを使って作業する際に使うワークシートで、左側が試験問題及び模範解答、右側はＣ級の問題である。７ページ目はＢ級である。Ｂ級は枠だけ用意しておき、自分で枠を大きくしたり、計算式を入れたりして使う。Ａ級は何もない状態で、見本を見て自分で作成する。７ページの後半は空白になっているが、８ページのワードのお便りの問題をここに入れ、その見本もしくは模範解答を８ページに掲載する。

アドバイザー

例えば１枚目の④の「本時例」の「時」は「事」ではないか。また、ほかの事例を見ると「本事例とキャリア教育との関連」は大体文章化して説明しているが、ここでは単語が三つ並んでいるだけ。ここは説明文が必要ではないか。

委員

三つ項目を挙げているが、職業課程の中で言うとこの三つになる。職業課程の中には単元がいくつかあるが、前回の冊子では単元ごとに「基礎・基本的な技能の習得」や「生活習慣の習得」「コミュニケーションの育成」などを入れて分類したので、ここでもう一度書き込むとくどいかなと思って抜いたが、必要であれば何行かずつ入れる。

委員

鈴木先生、中間報告と重なる部分があってもいいか。

事務局

中間報告は前段の事務局のページの中にも出てくる。こちらは提案なので重なる部分があってもいい。

委員

だとすると中間報告を生かしてそれを膨らませてもいいのではないか。また、⑤「概要」の「パソコン 18」というのは何か。

委員

18 時間のこと。下に「年間 18 時間」と入っているのでこれは余分なので削除する。

委員

「ＰＣの使い方」「ワープロソフト」「計算ソフト」「インターネット」の使い方ということなのか。

委員

はい。

委員

それだと概要ではなく、内容になるのではないか。それから下に写真があるが、これはもう少し枚数を少なくして一つの写真を大きくし、写真の下に何か一言コメントがつくと分かりやすくなると思う。それから１ページ目と２ページ目のつながりが難しいと先ほどの説明にもあったが、確かに資料がポンと出てくると、それをどう生かしていくのかわからない。そこで、このページの一番上にでもこの資料はどのように使う資料だということを、簡単でもいいので書いてもらいたい。

アドバイザー

それから体裁の問題だが、4 ページ目だけ向きが変わっているが、同じ向きにして載せる必要があると思う。

委員

半分にして、残りは CD-ROM に入れてもいいかなと思う。

部長

小中一貫教育の「技術・家庭」と「職業・家庭」は似ているので、その辺りは読んだ方も理解できる気がするが、特別支援教育においてキャリア教育をどのように理解し、「職業・家庭」を学習する子どもたちがどういう課題をどのように学習するか、１行か２行でもいいので触れておいたほうがいい気がした。③ねらいの「社会自立を目指し、～」の中に、「職業・家庭」という教科の学習のねらいは当然一つ出てくると思

うし、固定学級の子どもたちに「職業・家庭」という教科を学習させるうえでも書けると思う。それにもう一つ、キャリア教育でこういうパソコンの授業をやって資格という形でステップアップさせるのか。特別支援学校の卒業生のうち、今はいわゆる情報関連の企業に就職することが多くなった。だからその辺にも触れつつ、このパソコンの授業の意義が入ると、確かにこれはキャリア教育の中の指導事例ということになる。私は特別支援教育とキャリア教育の関係はあまり読んでいなかったが、この間探したら一つ出てきた。配ったと思うが「特別支援教育の中で、個々の障害の状況に応じたきめ細かい指導・支援のもとで適切なキャリア教育を行うことが大事だ」ということが、去年５月に出た二次審議経過報告の中で特別支援教育のポイントとして出ていた。確かに発達障害を含めて障害のある子どもたちには「自立」「社会参加」がキーワードとして大事である。望月先生にはそこを少しまとめていただきたい。

委員
　指導体制や指導上の工夫、配慮などを概要に書いてはどうか。

部長
　先生の言葉で文章を入れてもらえると分かりやすくなると思った。あと、「自立チェックシート」の中でパソコン 18 時間に関連するのはどの項目なのか。それから②実施学年の「全学年」というのは中１、中２、中３の７、８、９であり、この内容を中１で 70 時間やって、その進化したものを同じようなパターンでまた中２でやって、発展的な形で中３やる、そういう形で動いていくのか。

委員
　はい。

部長
　同じ時間でやっている場合もあり、やっている子どもたちにとっては異学年交流のような感じだと思う。

委員
　あと一つ、Ｃ級の「下記の各問題で正しいものを選んで記号を（　　）に書きましょう」とあるが、これは先生のオリジナル問題か、あるいは引用か。

委員
　引用のものもある。

部長
　先生のオリジナルであればいいが、引用であれば著作権の関係などが出てくるかもしれない。

事務局
　この「自立チェックシート」は学校で独自に作られていると理解していいのか。

委員
　はい。

事務局
　この「自立チェックシート」の目的や意図は何か。

委員
　子どもの能力を確認するためのものである。特別支援学級では個別支援計画と指導計画を立てているが、それに連携させていく第一段階として使うようにしている。チェック項目は生活していけるかどうかが主で、あまり教科のことは入っていない。本当はチェックシートが１番に来てそのあとに教科になっていく流れがいいのだが、今回の全体の流れに沿えばこういう形になってしまう。

事務局
個別指導計画とのリンクがあるということか。

委員
　そう。

事務局
　保護者の意見欄もあるので、保護者も見るのか。実際に丸をつけるたりするのは教員なのか、保護者なのか。

委員
　これは保護者にお願いしている。

事務局
　保護者が丸をつけ、それを踏まえて教員側が指導計画を作っていく。

委員
　そう。それから、やはり家庭と学校では違いがあるので、学校でも家庭から戻ってきたものと照らし合わせながら「家ではできるけれども学校ではまだ課題になるね」などと押さえて個別支援計画に生かしている。

事務局
　内容項目の妥当性に絶対的なものはないかと思うが、妥当性を導くために工夫されていることなど何かあるのか。

委員

特別支援学校の指導要録の中に「生活」とあるので、「生活」の中からある程度見比べているつもりではいる。

事務局

保護者の意見も入ったりするのか。

委員

はい。

事務局

資料１の位置づけを明確にしていくと特別支援教育におけるキャリア教育を考える一つの手がかりになるかと思う。

委員

私は教員がつけるのかと思ったので、保護者がつけるというのでなるほどと思った。やはりそういう説明もあったほうがいいのではないか。

アドバイザー

せっかくいろいろな資料が載っているが、どうやって使うのかとか、キャリア教育との関係でどういう位置づけにしているのかなど、もうちょっと丁寧に説明しないと伝わりにくい。だから写真も含めて文章は見開きで構成し、自立チェックシートは全部でなくてもいいのでもうちょっと大きく出してほしい。「おこづかい表」の空欄のほうはいらないのではないか。その分１ページ減らして書き出しのところを２ページで構成したほうがいい。先ほど小野先生がおっしゃったように「何時間目のこの活動は資料〇〇」と入れて、それについての説明を資料と対応させるとか。

委員

それから④の「本事例とキャリア教育との関連」を文章化して、⑤の「概要」を丁寧に書いていく。もし必要であれば概要の中に写真を入れたりするとまた分かりやすくなる。そうするとページはあっという間に埋まっていくと思う。

アドバイザー

この事例では「本事例の小中一貫教育における期待される効果」が書かれていない。

委員

小中一貫教育とはちょっと論点が違う。

部長

小学校では当然、パソコンで文章を入力したり、コミュニケーションの土台になるものがある。例えば自立チェックシートの右上の「文字・言語」という大項目には「ひらがなが書ける」「カタカナが書ける」「ローマ字が読める」などがあり、そして１年、２年、３年次とあるが、これは保護者用だからだと思う。もしこれが教師用ならばある程度個別の障害を把握しつつ組むので、その子の発達に応じた小中一貫の見取りは１行か２行書けるという気がする。その子の生育歴になるかもしれないが、獲得した知識や経験の度合いはやはり小学校をスタート地点にしないといけない。

アドバイザー

ただ、このあと出てくると思うが、見出しだけ見ていると「部活体験」の原稿の見出しは「本事例の期待される効果」になっている。「小中一貫教育における期待される効果」と書くと非常に難しいが、この事例で期待される子どもの姿や効果とすると、いま小野先生が言ったような形で書けると思う。

委員

今、普通学級に特別支学校の子どもが入ってきてこの子はどういう発達段階や生活状況にあるのだろうと本当に雲をつかむような状況にある。しかし、こういうシートを見れば、「あ、これできている」「これできていない」「この部分はできていない」といったことがわかり、「これは家では危ないですね」「じゃあそれを一つの課題とした支援計画にしましょう」などと使っていける気がする。

特に、支援級の子どもが６年間あるいは３年間で終わらずに９年間連続してみてもらえることに魅力を感じている親が、数は多くはないがいる。支援が必要な子どもであってもそこに入れば９年間みてもらえる。

部長

そういう入学の動機は当然あると思う。

委員

練馬区はこれから小中一貫を進めていくので、こうしたものがあると発達段階を踏まえてどうしていくのか、それはどういう自立とつながっていくのか、最終的にはどこまでもっていけばいいのかが見えてくる気がする。

事務局

では次の野田先生の事例に移りたい。

委員

以前、直すよう言われたところを直して作ってみた。④の「本事例とキャリア教育との関係」と⑤の「本事例の小中一貫に期待される効果」のところは、今までどんな声が子どもたちや事業所から上がっているかを入れたほうがいいと言われたので、米

印に具体的なものを入れてみた。２ページ目は、ワークシートの扱い方を一番下に入れていたが、それを⑥の本事例の概要（20 時間）のところに入れた方がいいという話だったので、２枚目の⑥の表の中に入れた。３ページ目からは資料を大きくと言われたので大きくし、３ページ目、４ページ目、５ページ目、６ページ目と入れてある。

委員

④の「本事例とキャリア教育との関連」で、黒ポチが二つ続いた次の＊印が「事業所によっては体験学習期間中の目標を設定し～」という書き方になっているが、学校としては職場体験学習に行くにあたって一人ひとり子どもたちに特にこれといった目標を設定させてはいないのか。

委員

そういうわけではない。要するにねらいは体験を通して自分の将来の生き方が考えられるようにするためで、具体的には実際に行った事業所からどんなお話やアドバイスを聞いたか、２日間で学んだことを一番うしろにある職場体験記録用紙にまとめさせている。ただ＊印は、事業所にこちらの意図をお話しすると、「２日間における君の目標はこれだよ」と目標を設定してくれるところがある。それによって子どもたちは働く時にそれをクリアしなければならず、そのためより一層工夫し、経験してきたという意味である。初めてこれに取り組む時は、事業所が「とりあえず２日間いてもらって、うちの事業所がどんな仕事をしているか見ていってもらえばそれでいい」という消極的な受け入れ方をすると思っていたが、そうではなかった。事業所は非常に積極的に受け止めて子どもの目標を立ててくれたり、「次世代を育成するための支援だと思って取り組んでいる」とこちらがそこまで考えていなかったことを言われる。事業所では「次世代」という感覚で受け止めてくれている。そういう事業所の積極的な姿勢がある。だからこちらもそういうつもりでやっていかなければ駄目かなと、＊印でこれを入れたのはそういう意味合いである。終わったあとに事業所からもらったアンケートや子どもの評価表から、こちらが思っている以上にあちらは受け止めてくださっているし、子どもに対していろいろ考えてくださっているのだなと思った。

委員

それはまさに本教育とキャリア教育の関連のもの素晴らしいところなので、あえて＊印が要るかなと思う。

委員

段落を変えて続けて書いてもいいのかなと思う。

部長

黒ポチでもいい。

委員

それから、その下の５番の＊印はまさに効果がここに書かれているように思う。＊印は付足しというイメージがあるので、段落を変えてそのままつなげて書くのもいいのかなと思った。また、下に少しスペースがあるので写真が１枚入らないか。

部長

たった２日間かもしれないが、地域の営業所の人や工場や商店で働いている人たちが子どもたちの真摯に働いている姿を見て、改めて働くことの意義を感じる。うちは去年、工場長が来て感謝されたことがあった。工場長が言うには、中学生が本当に真面目にやっているのを見て、従業員が働くことの意味をもう一度考える良いきっかけになったというのである。その話を聞いていい話だなと思った。キャリア教育は社会全体の協力なしにはできないので、これはすごくいいコメントだと思った。キャリア教育とは子どもだけが学ぶのではなく、むしろ社会全体で働くことの意義を双方向で確認することでもある。

アドバイザー

本当にこの＊印が大事である。ご存じだと思うが、もともと職場体験が全国的に広まったきっかけは神戸の震災である。その復興の中から始まった。その時に、いま小野先生が言ったことと重なるが、神戸の人たちはちょっと煙たく思っていた中学生から元気をもらったという。一般的に　中学生って悪いことばかりするイメージがある。ところがそうではなく、中学生のひたむきな姿に神戸の市民が元気をもらった。

その後もいろいろなところで始まって、初めはただでさえ時数確保で大変なのにという反応だったが、やっていく中でそういうものを超越した教育効果が出てきている感じがする。そのメッセージをどこかにもっと強烈に、＊印をもっと大げさに書いていいと思う。単なる勤労観を育てるなんていうレベルは超えた地域づくり、社会づくり、そういう教育効果がここにはある。要するに、人はこれをやることにどういう意義があるのか納得できると動く。ところがそれを仕事としてとらえて「こういう仕事がある。職場体験は上から言われてやらざるを得ないからとにかく計画を立てた」というレベルだと教育的になかなか活力は出てこない。でも「それをやることにはこういう意味づけができる」と納得できると広がりを見せる。教育とはそういうものではないかと思っているので、＊印のところをもっと膨らませ、写真なども入れられたら入れて、今のような視点を出したらどうか。東京都の中学校を全体的に見ると、まだ職場体験に消極的なところが多くある。７割ぐらい消極的な感じがする。なぜかというと、こなしているからで、こなすのではなく子どもが自分で計画を立てるのを先生たちがしっかり見守ってフォローしていくと、教育的な効果が倍増する気がする。カリキュラムの中での位置づけや時数の問題などは厄介でそれをどうクリアするかは課題として残るが、やれるのならばもっと時間をとってもいいぐらいだと思っている。そういうメッセージを練馬区から発信すればいい。

委員長

ある種の練馬プランになるかもしれません。

委員

手元に 31 日と１日に職業体験をやった事業所からのアンケートがある。いくつか紹介すると、「仕事と賃金の仕組みを知ること、仕事への心構えを職業を通じて学ぶことが大切である」「値段がどのように決まっているのか、原価その他、それに対する付加価値などを考えっていったならば、万引きなんていうことはなくなっていくだろう」それから「職業体験を通じて食の安全や、食べるものについて基本をもう一度見直してもらいたい」などの意見が入っている。そういうことをやることにより、われわれが思っていることプラス受け入れ先がキャリアについてどのように考えているかも期待されるものになるかと思う。

アドバイザー

＊印をつけるのであればむしろ＊印のところに今のような反応例を入れる。また、「本事例とキャリア教育との関連」に黒ポチで書かれている二つは「ねらい」の範囲のように感じるので、なくてもいいと思う。書くのならばむしろ③の「ねらい」にあげる。そして「本事例とキャリア教育との関連」では野田先生が＊印で書かれていたものを全面展開したほうがいいのではないか。

事務局

そこにもう一つ中学生にとっての自己肯定感、事業所や一般の方々に自分が認められたその思い辺りもここに加えられればと思う。

委員

アンケートの３番の「生徒からの電話で打診→学校からの確認の電話→生徒との打ち合わせ→当日」とあるが、私が桜の副校長だった時、事前の連絡もなく突然生徒から職場体験の申し込みの電話がきてびっくりしたことがあった。やはり教育活動だとすれば学校から「今こんなねらいで、こういう活動をしています。いついつ生徒からこういう電話がいきます」と事前に連絡があれば、生徒から電話がきた時にもそれなりの対応ができると思う。生徒からの電話で打診→学校からの確認の電話の順番を逆にする方がいい。

事務局

では「職場体験」はよろしいでしょうか。それでは「１／２成人式」の検討に入る。

委員

④「本事例とキャリア教育との関連」の文言を「５年生」、それから「中学生（第Ⅱ期・Ⅲ期）」というふうに変えてある。それから⑤「本事例の小中一貫教育における期待される効果」はまだ文章化できていないので箇条書きで書いた。もう少し時間を頂

いて文章を作っていきたいと思う。次のページの⑥「本事例の概要」、⑦「本時の展開」は特に変えていない。４ページの本時の展開「１／２成人式」は、小中一貫教育校としての取り組みということでⅠ期からⅡ期、４年生から５年生への節目を意識させることを加えてある。ここはもう少し何か必要ではないかと思うのでつけ加えていきたいと思う。それからワークシートを２枚添付した。

部長
　ここまで細かく作成いただいたところで先ほどの話に戻ってしまうが、ほかの部会の事例と重なっているがどうか。

委員
　切り口が違うからいいと思う。

事務局
　それぞれ柱立てが違うので重なってもしかたがないと思う。

委員
　「１／２成人式」は全部で三つ出てきている。

部長
　「未来のために（ア A の総合 12)」で出ていて、心の教育のほうも総合のウで出ている。でも、先程の資料の事例一覧では特活になっている。

委員
　特活の 13 時間扱いになっている。

部長
　少なくとも原稿だけは鈴木先生のほうで急遽入手してもらって、特色が出る形で三つを出さないとあとで申し訳ないことになってしまう。最優先で表現力の育成と心の教育の推進の担当者と打ち合わせをする必要がある。向こうが全然できていないのならば、流れを変えてもらうようにこちらの原稿を見せておきたい。先ほどの職場体験も、表現力と心の教育の８年生でも出ている。

アドバイザー
　選択してやってくれと言えばいいのだが、これは一つの小中一貫校でやることをイメージして作っているので、計画が二つも三つも出てくるのは変である。

部長
　よほど視点が違えば「ああ、そうか」と読めるかもしれないが。

アドバイザー

この事例は心の教育にも関連するし､キャリア教育にも関連するというのはいいが、指導計画そのものは同じはず。三つあるわけない。

部長

「小中合同クリーン運動」と「クリーン運動」も重なっている。

アドバイザー

だから、例えば世古先生が作った指導計画をベースにして、心の教育ならばどこかの時間を取り出して道徳の授業でそこを発展させて扱うというふうにやってくれればいい。ところが、三つ全く系統の違うものが「１／２成人式」で出てきてしまうと、桜小中のために作った計画なのに、三つのどれかいいのを選んでくれという感じになる。

委員

夏にいろいろな実践事例を見たが、２枚目の「本事例の概要（13 時間)」を見ると総合になっているが、例えば心の教育の推進だと道徳で扱っているのもある。文科省の資料も「10 年史を作る中で命について考える」などと、道徳で扱っていた。そして自分の夢を発表するための練習に重点を置いて表現力の育成を図る流れになっているものもあった。

委員

どこの時間を膨らませるかだと思う。

アドバイザー

重なってもかまわないし、部会の主張する強調点は違ってもいいが、指導計画はやはり同じでないとまずい。

例えば、心の教育の部会が世古先生の指導計画を基にどこかを取り出して１時間の道徳の授業に発展させ、道徳で扱う指導案を載せるのが本当は一番いい。

部長

それで全体計画は何ページ参照と飛ばしてしまえばいい。

アドバイザー

指導計画が三つも出てくるのはおかしいから、どこか１時間取り出して１時間とか２時間ぐらいの指導案にしてもらう。

委員

「職場体験」も、表現力は事前学習にウェイトを置いているようだし、心の教育は職場体験を通した道徳と総合だから事後的な部分だと思う。

委員
事前と本番と事後というようにきちんと区分けができていればいい。

委員
でも「１／２成人式」は時数も扱い方も似ている。

委員
時期も４年生になっている。

委員
この学年は大きな切れ目なのでしかたがない。

委員
あと「自己の生き方を考える」という新しい特活のねらいで言えば、特活で扱えないこともない。ただ、今ここであまり細かく検討しても、今後１本の指導計画に基づいてそれぞれの部会でということになると、また視点が変わってくることもある。

部長
やはりこの情報をほかの部会に流しておいたほうがいい。

委員
去年の中間報告でうちは「１／２成人式」を出している。

事務局
この件は持ち帰らせていただき、担当としてこちらの計画がベースになるように努力したいと思う。

委員
あと一つ、１枚目の中ほどにⅡ期・Ⅲ期をとらえて「中学生」という呼び方をしているが、「中学生」という言葉はできたらはずしたほうがいいと思う。同じように２枚目の右側の「指導上の配慮、留意点」の下から７行目にやはり「中学生」とあるが、ここは上級生程度で表現してもらいたい。

委員
はい。

事務局
表記の統一はほかの部会も含めてまだ定まっていないところなので、気をつけてまとめていきたいと思う。これは総合的な学習の時間ということで、先ほどの中間報告

の表は修正する。では、次に「リトルティーチャー」にいきたいと思う。

部長

先ほどの「職場体験」の野田先生ではないが、リトルティーチャー自体を行うことによって何が育って何が変容するのか、もっと新たな視点が出るかなという気もしている。左上の資料 1-1 は 国語の指導案、資料 1-2 はそれをやるために中学生に聞いてみたい１年生のプリント、そして資料 1-3 は時間がないので小学生や中学生にこういう形でやってくださいと説明するプリント、それから資料２は図工の指導案、資料３は音楽の指導案、資料４は外国語活動の指導案、4－2 には中学生はこういう形でやるのでこうやってくださいという、上小の先生がこの５年間で相当ブラッシングしたプリントである。表記が「中学生」「小学生」となっているので「７、８年」などに変えなければならない。著作権は大丈夫だが、できれば小学校の副校長と連絡をとってもう少し何か入れたほうがいいかヒントをもらいながらつめていこうと思っている。

アドバイザー

ページ数は増やせないから、写真や何かを CD に入れることは可能か。

事務局

はい。

アドバイザー

ほかの原稿もそうだが、肖像権などの問題に十分注意しながら活動の様子が分かるページを作ってもいい。

事務局

もし写真データがあれば、学習指導案の右上などにスペースがあるので入れられるかもしれない。

アドバイザー

なるほど、学習指導案の隙間に入れるか。

事務局

それでは、次に根本先生の事例に入る。

委員

大体これまで見ていただいたもので、ちょっと写真を入れた。内容は前に見て検討していただいたものとそれほど変わっていない。１ページはお決まりのもの、２ページが事例の概要、カードが３枚、そして下にカードの使い方を入れた。これは大人のチェックリストだが、チェックリストの使い方が必要ならばここに入れる。７、８は最初の協力依頼と協力のお礼というお決まりのもの、これで８ページそろえてきた。

「期待される効果」は、ちょっと迷ったが風呂敷を広げてしまった。小中一貫だったらもしうまくいけば２年生の時に持った願いを保管しておき、それをⅡ期やⅢ期の職場体験の時に「あの時はこうだったね」という形にできるといいかなと思って期待される効果に入れた。

部長
行くところは相当の数か。

委員
多い時は 25 ぐらい、20 か所は確保している。

部長
子どもたちのグループは４～５人か。

委員
一番小さいお店には３人、畑などには６人と行くところによって違う。

部長
保護者に要所、要所に立っていてもらったりしているのか。

委員
保護者は出発からゴールまでつきっきりでいる。その間、保護者の方は後ろでずっと一人ひとりについてメモを取ってもらっている。

部長
保護者の理解がないとなかなかできない。

委員
２年生になると４月から「この時期にやりますのでよろしくお願いします」とお願いする。また、町中に大きなポスターを作って掲示するので、また次の年にも引き受けてくださる。キャリアとはちょっとずれるが、今年研究生として研修センターにいっている人が地域への愛着ということでデータを取ったところ、東京都内のいろいろな学校と比較しても地域の人への愛着や地域の人が好きという割合が高く、96%ぐらいだったと言っていた。やはり小さい時のこの体験がすごくいいのかなと思う。

委員
２ページ目の太いゴシックは、意図的に強調したいところを太くしてあるのか。

委員
はい。

委員
　大事なところをゴシックにするのであれば、例えば点線で囲ってあるところも大事なところではないか。

委員
　ここは小単元のねらいである。

委員
　あまりゴシックを多用すると逆にどこを強調したいのか分からなくなってしまうことがあるので、必要最小限に抑えたほうがいいと思う。

委員
　はい。

部長
　私のもそうだが、根本先生のも資料がいっぱい入っている。雑誌とか参考書などにはビジュアル的なノウハウがあると思う。

アドバイザー
　部会として統一しておいたほうがいい。

事務局
　全部、明朝にした見本がある。報告書として部会あるいは全体で統一する部分の表記の仕方と、ワークシートなどそれぞれの創意工夫などがあって味を出す部分は、ちょっと整理しなければと思っている。それでは「部活動体験」に入る。

委員
　保護者への通知文を今まで出していなかったので、今回は部活動申込用紙とともに入れて８ページにした。あとは前回と比べてこれといって大きく変わったところはない。

アドバイザー
　この「部活体験」の流れのようなものは、例えば安井先生の学校でも使えるか。

委員
　使える。

アドバイザー
　近隣の小学校に呼びかけて？

委員
　はい。

委員
　部活は学習指導要領上、正式にどういう位置づけなのか。教育課程外か。

部長
　学校で行う教育活動ではあるが、要するに教育課程上の位置づけの中に入り込めないところがある。

委員
　子どもが魅力を感じているのはすごく分かる。

部長
　職務としても「やってください」と強く言えるようになったが、中学校のやりたい子どもと先生方の同好の士が集まってやるというのが基本である。

委員
　小学校におけるクラブ活動の延長ではない。

アドバイザー
　小学校は特活できちんと位置づけられているが、中学校は位置づけができない。

委員
　では、１行目の一番上の「中学校部活動」というところはどうするか。一般的にはこういう名称で通っていると思うが、小学校の教員にとってはちょっと分かりにくい部分かなと思う。

事務局
　教育課程外、時間外ではあるけれども学校の教育活動として実施できる。

部長
　水曜日だけが５時間であとは６時間授業で終わるのが３時 40 分だと、下校時間が４時ちょっと前で秋冬は日の入りが５時ちょっと過ぎだから、実際のところ６時間授業だと厳しい。40 分か 50 分。小学生が秋冬にやる時の安全面などを考えると、迎えにきてくれるとは思うが、なかなか難しいものがある。

事務局
　小学校の先生が見る時に、部活動の位置づけを一言入れたほうがよさそう。

委員
　小学校のクラブ活動と同義ではないということは、＊印ででもどこかに入れておいてもらったほうがいいかもしれない。

事務局
　学習指導要領の総則の文章をそのまま引用すればいいかと思う。

部長
　小学生は時間にかかわらない特別活動でやっているのか。

委員
　体験だと５時までやる。

委員
　そして入部する場合もあると思うが。

委員
　入部すると６時までやる。

委員
　小学生が６時までやるのは特別活動でカウントできるのか。

委員
　一応小学校とはそういう位置づけにしている。

部長
　例えば、特別活動の宿泊を伴う行事などの場合、特別活動の時間外でもそれが妥当であるかという計画の下でやることになる。学校における教育活動の部活というのはそれとは別なので、その時に６時までがその子にとって特別活動ですよと、要するに全体の特別活動でなくてもできるのか。

委員
　学級活動と書いてあるのでおそらくこれは、学級活動の内容の（２）の中の中学校進学に向けての不安を取り去るような内容に当てはめて考えているのではないかと思う。

部長
　私たちは、例えば職場体験に子どもたちを連れていく時には保護者にオーケーをとって 60 円か 70 円の保険をかけ、外で何かあった時はそれでフォローする。だから入れるのならば少なくともそういうリスクまで考えておかないといけない。

委員
　管理下なら通ると思う。

委員
　これは小学校の特別活動の学級活動としてやっているから、当然管理下である。

事務局
　今お話を聞いていて、指導時間を４時間で設定しているが、さらに継続的に体験活動が続くとなると整理が必要かなと思った。２番の「５年生：９月、６年生：５月　４時間」のように４時間限定の体験であれば特にそういう心配はないが、後のほうを見ていくと結構継続的に活動していくニュアンスで書いてあるので、その辺りは整理しないといけない。

部長
　７枚目の資料を読むと活動時間が３月～10 月、18 時最終下校となっている。木下川先生のことだからどこかで処理していると思うが、部活動などはそういう状況になった時に顧問がどこにいたとか指導計画があるかなどいろいろ出てくる。

事務局
　そういった意味では小学校が課外でやっている活動がいくつかあると思うが、そういうケースはどういう扱いになるのか。

部長
　朝錬とか。

事務局
　地域のものでなく先生が集めてやっているサッカーチームとか。

委員
　校庭開放の時間なども補償はどうなっているのか。

委員
　それは社会教育のほうで保険をかけたりしている。

委員
　居場所づくりも別。

委員
　そう。学校応援団の居場所づくりも全く別ルート。

事務局
　この学習指導案のスタンスとしては継続的なのか限定的なのか。

委員
　基本的には体験からの継続的な活動というふうに見て､いわゆる従来の中学１､２、３の３年間ではなく５、６も入った５年間の活動ということを考えている。かつ５年生ぐらいに８、９年生はすごいなという目標を提示し、より活発で充実した取り組みを目指している。

委員
　４時間の１時間目がオリエンテーションで、２時間目は保護者と一緒に説明を聞くのか。１は分かったが、２・３・４は何か。

委員
　２・３・４は体験。

委員
　４時間目以降は、何といったらいいのか、継続活動というのか。

委員
　本入部、正式入部になる。

部長
　これは指導計画に入っているので基本的には正式入部ではないか。

委員
　二重線か何かで一回切ればいい。

委員
　ここに線があるとここまでで４時間だと分かる。それ以降は４時間プラスαみたいに書いてあるといいと思う。

部長
　「小学校でのクラブ活動の時間を部活動の活動できる時間として確保することで、７、８、９年生でもクラブ活動に参加できるような工夫をする」と留意事項にあるが、これは参加しない小学生もいるということか。

委員
　全員参加である。

部長
５、６の全児童が、この時間は中学校にいくのか。

委員
中学校に来るとは限らない。体験によって中学校の部活を選ぶ子もいるし、小学校のクラブを選ぶ子もいる。

部長
小学校のクラブもあるのか。

委員
ある。

部長
では小学校プラス中学校の部活なのか。

委員
はい。

部長
ではその小学校の部活というのは小学校のクラブと読み替えをするのか。

委員
はい。

委員
普通クラブ活動は４、５、６年でやる。だからいま話を聞きながらふと「ちょっと待てよ、４、５、６年でやっていて５、６年だけあっちへ行くと４年だけが残るのかな」と思ったのだが、どうなっているのか。ちょっと整理する必要が出てくるかもしれない。

委員
特別活動だと異学年交流がないと駄目だと思う。

委員
解説書の表現にはたぶん「４年以上の同好の士をもって編成する」という表現があったような気がする。

アドバイザー
それとも４年と５年は残しておいて６年だけで行うか。

委員
　そうすると４年、５年の異学年交流となりクリアできる。ただ、かなり無理はあるのだが。

アドバイザー
　とりあえず４回だからいいのではないか。

部長
　６年でやれば逃げることはできる。

委員
　そうすると、両方クリアできる。

委員
　ねらいの（２）にも「中学への進学不安を無くす」とあるのでいいと思う。

委員
　部活動体験は実際に何時からやる活動なのか。

委員
　基本的に体験は放課後にやる。３時半とか４時半。

委員
　だから実際には小学校のクラブとしてやっている活動ではない。その辺のところはどうなのか。

部長
　この４時間の時だけは中学校の時間割を変更して小学生が来られる時間で組んでしまうことも考えられる。

委員
　桜小学校が体験入部する時は実際にそのように配慮していたと思う。

アドバイザー
　それでいい。

事務局
　実施学年について、小学校の特活の解説にこう書かれている。「クラブ活動は学年や学級の所属を離れ、主として第４学年以上の同好の児童をもって組織するクラブにおいて異年齢集団の交流を深め、共通の興味・関心を追及する活動を行うことと示され

ている」。加えて「主として第４学年以上の児童による活動であるが、小規模校においては第３学年以下の学年からの実施も考えられる」となっている。

アドバイザー
　だから６年だけにすればいい。これを参考にしてあとは桜小中で考えてもらえばいい。

委員
　交流の一環として考えればいい。

部長
　本活動も入っているのでどうするか。

委員
　５、６年をもっていってしまうと、たとえ４時間にしても４年だけが残ることになり、異学年交流という小学校側のクラブ活動のねらいが果たせなくなる。難しいところだが、少なくとも５年生が残っていれば、４時間分については４年と５年で協力して活動することでなんとか説明がつく。

委員
　でも桜では５、６年生が 50 分授業になって４年生と時間のずれが出てくる。そうするとクラブ活動はどうするのか。

委員
　60 分でやっているところもある。その辺はフレキシブルにできるのではないか。そういう実践例はたくさんある。

委員
　中休みその他の時間で調整して、朝の１時間目の始まりの時間と５時間目の始まりの時間を両方でそろえている。だから今のところ５時間目の１コマにクラブをあてることによって、部活とクラブ活動が同じ時間で相乗りできるようにしている。

事務局
　私の立場では非常に提案しづらい意見だが、体験は体験で特別活動の４時間で計画してこの事例を出す。そしてそのあとは保護者の了解のもとに任意で参加できるというように提案する道もあるのかなと思う。これがいいことなのかどうかはちょっと確認しなければいけないが、そこを分けるとすっきりしそうな気がする。

部長
　クラブ活動の時間を部活動の活動ができる時間として確保するのではなくというこ

とか。これは根幹にかかわる問題なので木下川先生などに話をしないと、ここでは言えない。クラブ活動はクラブ活動としてやる。鈴木先生の今の話はそういうことだと思う。こちらから意見は言えるが、ああしろ、こうしろとは言えない。鈴木先生、これは事務局に預かってもらって調整してもらいたい。

事務局
　はい。時間もだいぶたっているが、飯塚先生、安井先生のほうから何か皆さんに諮ることはないか。

委員
　気になっていることがひとつある。鈴木先生がまとめた大きな冊子で、１番から７番ぐらいまでは数字の振り方がみんな統一されているが、私のところは 10 番まである。これは果たして許されるのか。あるいは「資料」のような形でもうちょっと番号を整理したほうがいいのか。

事務局
　これはトータルでどう示すか確認しなければならないが、例えば「資料」とか「シート」は表題にして番号はふらずにすれば、他の方とそろうかもしれない。

委員
　自分のところは「考察・分析」が入っているが、これをどうしようかなと思っている。

アドバイザー
　項立てをどうするかはわからないが、やはり地域とかかわっていくところは重要である。

委員
　これは資料というくくりではないのでどうしようかなと思っている。

アドバイザー
　そんなに完璧に項立てがそろわなくてもいい気もする。

事務局
　この考察・分析の内容が「本事例とキャリア教育との関連」や「期待される効果」などに吸収される可能性はあるのか。

委員
　あるが、最初のほうに６番までで大体１ページと言われてしまったので。

事務局
　吸収して２ページにしてしまうことも考えられる。

委員
　でもこれは実践のあとの話なのであまり前のほうに書けない気がする。

委員
　こういう成果が上がったと概要として書くのであればいいと思う。

アドバイザー
　もしも無理やり枠の中に入れるのであれば、位置づけとして「期待される効果」かもしれない。

委員
　気になっているのは、９番の「考察・分析」は心の育成になっている。心の教育部会もここに入っている。

アドバイザー
　クリーン作戦は三つあった。

委員
　心の事例に絶対入っていると思う。

アドバイザー
　当然向こうも同じようなことを書いている。

事務局
　今の考察のところを「期待される効果」に入れると、職場体験で話があった「社会の一員として」という視点で見た時にキャリア教育の意味が強く出せるような気もする。

アドバイザー
　やはりいま鈴木先生がいった社会とのかかわりだと思う。社会とのかかわり、あるいは社会に奉仕的にかかわっていることによる自己肯定感、その辺りを強調して「期待される効果」の中に入れるとよい。

事務局
　あとは実際にこの活動をする際の生徒たちの意識づけのところで、これを年に１回やったから町がきれいになるわけではない、中学生が清掃活動をすることで大人たち社会に対してアピールするのだと、そういう使命の辺りも書けるかなと思う。

アドバイザー
　職場体験学習的な要素と、小中学生が一緒にやるという要素がある。職場体験は中学生だけだが、小中一貫の効果という意味では職場体験以上に色濃くでるかもしれない。

事務局
　他の部会とのすり合わせも頑張るが、安井先生にはその辺りを書いてほしい。

委員
　これを「期待される効果」のほうに移す。

アドバイザー
　ここには写真を入れたい。あと気になるのは心の部会がどこを取り出してくるかだが、それはいま議論しても仕方ない。言語の部会はコミュニケーションだが、いまコミュニケーションは心の問題にも、キャリアの問題にもかかわる。クリーン作戦のように異学年でやる活動は今の子どもたちには本当にない。コミュニケーションは実はそこから芽生えてくる部分が多いので、多分そういう展開をすると思う。だからほかの部会のやろうとしていることは大体分かる。そういう点ではキャリアのほうが、いろいろな要素を含めて大括りになるかもしれない。心の問題もコミュニケーションの問題も全部ひっくるめた社会活動の中で育つ子どもの姿のようなものが強く出る気がする。だからあまりよそを気にしないで大風呂敷で書いておく。おそらく心や言語のほうはキャリアのように広げて書けないので、どこかに焦点化して書かざるを得ないと思う。あとの調整は教育委員会に任せるしかない。

事務局
　キャリア教育のほうが守備範囲は広い。

部長
　フィールドが違う。学校が発信して社会に影響を及ぼすのはやはりキャリア教育の大きな役割である。昔は町会か何かでリアカーにゴミ集めて何かを買うとか、いまそういったことは全然ない。だからある意味ではそうやって汗を流して奉仕活動をするのもいいかもしれない。

事務局
　あと飯塚先生は何かあるか。

委員
　前回から全然進展がない。前回あった特別支援学級としてのキャリア教育の視点をどのような形で表記するのかについては、皆さんからご意見をいただきたい。あとキ

ッザニアからいま盛んに東京都内の特別支援学級の小学校、中学校宛に無料で来てくださいという案内がくる。

部長
　うちもただで行く。

委員
　そういうことで、以前はキッザニアなんて中学生は行かないだろうという話もしていたが、改めて職場体験模擬施設として位置づけてもいいのかなと考えている。そんなところでもう一回書き直す必要があるかと思っている。

事務局
　次回は 10 月 5 日、同じこの場所になる。次回が終わると 10 月 19 日が最終の予定になっていている。

アドバイザー
　精力的に進めてもらい、もう形が見えてきた。やればやるだけやはり課題も出てきた。ほかの部会との関係などは今まで考えたことがなかったが、それはこちらが進んできたからと前向きにとらえればいいなと思っている。何か今まで勉強してきた成果のようなものが私たちの話の中にもじわじわと出てきているかなと、今日はそんな思いで聞かせていただいた。もうほとんどゴールで、あとはそれぞれの原稿を整理していただければと思う。

事務局
　石井校長先生、最後に挨拶を。

委員
　廣嶋先生の言葉と重なるのですが、皆さんに本当に精力的にお仕事を進めていただき、もうゴールが見えてきた。あとは微調整かと思う。